

2017年11月10日

関係各位

＜東海テレビ かわら版＞

**第49回東海テレビ文化賞
榊佳之氏ら
3名と1団体に決定！**

紹介番組：11月29日(水)午前11時00分から放送

(顕彰式は28日(火)午前10時30分～東海テレビにて)

東海テレビ放送は、第49回東海テレビ文化賞の顕彰者を決定しました。同賞は、昭和43年の東海テレビ開局10周年に制定され、東海地方に在住または関係が深く、多年にわたり社会、文化、学術、産業などの各分野で功績のあった人や団体に贈られます。

顕彰式は11月28日(火)午前10時30分から東海テレビ放送本社(名古屋市中区東桜1丁目14-27)で行われます。

また、顕彰者の功績を紹介する報道特別番組「平成29年東海テレビ文化賞～道一筋に～」は、11月29日(水)午前11時00分から同11時25分まで放送されます。

顕彰者の経歴と受賞理由は次の通りです。

第49回 東海テレビ文化賞顕彰者

【美術分野】

たるもと じゅそん
樽本 樹邨（80）〔愛知県〕 書家
＜中部書壇の向上、後進の育成に尽力＞

【学術分野】

さかき よしゆき
榊 佳之（75）〔愛知県〕 分子生物学者
＜ヒトゲノムの全解読に貢献、地域の教育や人材育成に尽力＞

【伝統芸能分野】

はくうんざ かぶ きほぞんかい
白雲座歌舞伎保存会（団体）〔岐阜県〕
＜江戸時代から続く地歌舞伎を継承し地域力の向上に貢献＞

【音楽分野】

にしき こ
錦 かよ子（68）〔三重県〕 作曲家
＜多くの秀作を作曲し、人材の育成など地域文化の向上に寄与＞

以 上

たるもと じゅそん
樽本 樹邨

昭和12年3月25日生(80) 愛知県

書家 全日本書道連盟顧問
中部日本書道会名誉会長代行
牛刀書道会会長
中京大学名誉教授

<中部書壇の向上、後進の育成に尽力>

名古屋市出身。25歳で日展初入選し、青山杉雨氏に師事。自ら主宰する牛刀書道会は400人規模の大所帯である。

平成20年の第40回日展で書部門最高賞の文部科学大臣賞を受賞。受賞作「應詔讌曲水詩」は宴席の楽しさを歌った32字の中国古典詩を野性的で頑強な書法で描いた作品。題材選びに3カ月、制作に墨60本を費やした。日本を代表する「現代書道二十人展」のメンバーとして活躍する一方、後進の指導にも尽力している。平成22年には日本芸術院賞を受賞、さらに日展常務理事、全日本書道連盟理事長を歴任するなど日本の書道界を支える重責を担う。

<略歴>

昭和37年 第5回日展初入選
昭和40年 第32回謙慎書道展西川春洞記念賞
昭和42年 中京大学文学部講師、(昭和54年・教授、平成14年・名誉教授)
昭和45年 牛刀書道会発足「牛刀書道会」主宰
昭和57年 第14回改組日展特選
昭和59年 日展特選
昭和63年 愛知県芸術文化選奨「文化賞」
平成3年 中部日本書道会副理事長(平成11年・理事長、平成19年・副会長)
平成4年 日展審査員(平成4年、11年、16年、20年も)
平成12年 朝日新聞社現代書道二十人展に推挙される(後9回)
平成13年 読売書法会常任理事
平成17年 日展評議員(23年・常務理事)、
全日本書道連盟理事長、謙慎書道会顧問
平成20年 第40回改組日展文部科学大臣賞
平成22年 第66回日本芸術院賞
平成23年 謙慎書道会理事長
平成27年 全日本書道連盟顧問

さかき よしゆき

榊 佳之

昭和17年9月9日生(75) 愛知県

分子生物学者

東京大学名誉教授

静岡雙葉学園理事長

理化学研究所名誉研究員

前豊橋技術科学大学学長

オーエスジー(株) 社外取締役

<ヒトゲノムの全解読に貢献、地域の教育や人材育成に尽力>

名古屋市出身。東京大学名誉教授の分子生物学者。ヒトゲノム研究の第一人者でヒトや霊長類の遺伝子の構造と機能の解析を行い、ゲノム科学の世界的発展に貢献した。平成7年から15年まで、国際ヒトゲノム計画の日本代表として研究チームを率い、21番染色体などヒトゲノムの全解読に貢献。

平成14年から17年までヒトゲノム研究の国際組織 HUGO の会長を務めた。また、平成16年から理化学研究所ゲノム科学総合研究センター長、平成20年から豊橋技術科学大学学長を務めるなど地域の教育、人材育成にも尽力している。

<略歴>

- 昭和41年 東京大学理学部生物化学科卒業
- 46年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了 理学博士(東京大学)
- 46年 米国カリフォルニア大学ウイルス研究所研究員
- 48年 三菱化成生命科学研究所副主任研究員
- 52年 九州大学医学部講師
- 60年 九州大学遺伝情報実験施設教授
- 平成4年 東京大学医科学研究所教授
- 10年 理化学研究所ゲノム科学総合研究センタープロジェクトリーダー
- 11年 スミソニアン賞
- 13年 ムーサ賞、日本人類遺伝学会賞
- 15年 紫綬褒章、中日文化賞
- 16年 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター長、東京大学名誉教授
- 20年 国立大学法人 豊橋技術科学大学学長
- 25年 文化功労者
- 26年 静岡雙葉学園理事長
- 27年 瑞宝重光章
- 28年 オーエスジー社外取締役就任

はくうんざかぶきほぞんかい

白雲座歌舞伎保存会（団体） 岐阜県

<江戸時代から続く地歌舞伎を継承し地域力の向上に貢献>

門和佐の舞台とも呼ばれる白雲座は、岐阜県下呂市門和佐地区の白山神社境内にある芝居小屋で、江戸時代末期に建てられ、明治23年に客席を造り現在の形になった。建築様式は切妻造・妻入。総檜造の典型的な劇場型芝居小屋で、直径5.4mのコマ回し式の回り舞台が設置されている。昭和53年に「門和佐の舞台」白雲座が国の重要有形民俗文化財に指定された。

明治30年代までは地元の人々による地歌舞伎が行われたが、戦争などの影響で中断。太平洋戦後一時的に再復活したが再び中断。昭和43年から地元青年団によって復活。昭和53年に国の重要有形民俗文化財に指定されたことを機に白雲座歌舞伎保存会を結成。以来毎年11月、神社の祭礼に奉納歌舞伎定期公演を上演。全国から多くの観客が訪れている。

また、地域の子供たちへの伝承も積極的に行うなど後継者育成に尽力。県内外で公演を行うなど、「地歌舞伎」の魅力为全国へ発信し地域力の向上に貢献している。

<略歴>

- 昭和53年 白雲座歌舞伎保存会を結成
- 56年 子供歌舞伎を開始
- 61年 呉服座公演（愛知県明治村）
- 平成10年 岐阜県伝統文化継承功績者表彰
- 13年 岐阜県観光事業功労者表彰
- 16年 ふるさとの笹踊と歌舞伎公演（愛知県芸術劇場）
- 17年 岐阜県文化財保護功労者表彰
- 20年 歌舞伎地域交流公演（静岡県浜松市）
- 23年 岐阜県文化財保護功労者表彰
- 28年 岐阜県芸術文化顕彰

にしき
錦 かよ子

こ
昭和24年生(68) 三重県

作曲家 三重中京大学短期大学名誉教授
皇學館大学教授(平成27年3月退官)

<多くの秀作を作曲し、人材の育成など地域文化の向上に寄与>

三重県津市出身、津市在住。愛知県立芸術大学作曲科、大学院卒。在学中の昭和46年に日本音楽コンクールで入選し、49年に3位入賞。54年には管弦楽曲「この世は神様の宴」が文化庁の舞台芸術創作奨励特別賞を受賞。ピアノ曲や声楽曲、合唱曲など多くの作品を発表した。平成元年からはオペラや舞台芸術作品に精力的に取り組む。長崎原爆の悲劇を描いたオペラ「いのち」を作曲し、長崎県オペラ協会が上演したこの作品は、全国で上演され三菱UFJ信託音楽賞、JASRAC音楽文化賞を受賞するなど高い評価を得ている。また地元を題材にしたオペラ「齋王」「贄^{にえ}のうたげ」なども発表し各地で上演。

さらに書籍も執筆し、30余年の大学教員生活で音楽家を育成すると共に地域の教員や学生を指導し人材育成に尽力。現在も精力的に作曲やコンサートを開催するなど、地域の文化振興に寄与している。

<略歴>

- 昭和46年 日本音楽コンクール入選(室内楽の部)
- 48年 愛知県立芸術大学音楽科作曲専攻卒業
- 49年 日本音楽コンクール3位(管弦楽の部)
- 50年 愛知県立大学大学院修了
- 54年 文化庁舞台芸術創作奨励特別賞(管弦楽曲)
- 平成6年 三重中京大学短期大学部教授
- 22年 皇學館大学教育学部教授
- 25年 オペラ「いのち」長崎県にて初演(27年、新国立劇場にて公演)
三菱UFJ信託音楽賞奨励賞(長崎県オペラ協会)
- 27年 JASRAC音楽文化賞(「いのち」の演奏)
- 29年 三重県文化賞文化大賞